

# 常なる磐

つねなる いわ

令和3年3月17日(水)

## ◇ 卒業証書授与式に向けて③ 120年宣言と6年生

3文から成る「常磐東っ子120年宣言」。実は、メインは最初の宣言文である。

「わたしたちは 常磐東の 【光】 となります」

後ろから遡（さかのぼ）ると、宣言がつながるようになっている。

つまり、

「常磐東の将来を大切に」しながら、「常磐東のために頑張り続ける」ことで【常磐東の光】となる。という決意の宣言文なのである。

卒業を機に、地域への愛着について改めて考え、自分の住む街を大切にすることを固く、確かなものとしたいものである。

さて、メインの最初の宣言文。この宣言文のキーワードは【光】だ。

そして6年生の名前が、【光】とつながりがあることに気付いた。

名前と【光】との「つながり」。

卒業式の式辞の中で述べようと計画したが、時間の都合上、やむなく削除。

それでも後悔しないために、書面を借りて伝えておくことにした。

### ☆大江 智暁（おおえ ともあき）

「江」は大河を表す。さらに「大」が加わることで、河（川）の大きさをスケールアップしたのが「大江」である。

大きな河は激しく流れない。ゆったり流れる。ゆったり流れる水面に陽がさすと、水面は一気に光を反射し、【光】を生む。

「暁」は「日＝陽」と「堯」から成る。「堯」は「高いこと」を表すので、「暁」は太陽が高く昇り、燦燦と【光】注ぐことを意味する。

## ☆細川 煌高（ほそかわ こうき）

「細川家」といえば、江戸時代の熊本藩「肥後細川家」をイメージするが、本姓は「源」、つまり源氏である。岡崎市の細川町から発祥したことで「細川」となる。この細川家の旗印が「細川九曜」。太陽の周りに8つの星が並び、太陽が【光】を放っているような家紋なのだ。

さらに「煌」は、「きらめき」「かがやき」と読むほか、「輝く火の【光】」という意味があり、煌貴とは「気品ある、絶えない【光】を放つさま」なのである。

## ☆中根 槇助（なかね しんすけ）

愛知県の中根姓は11,000人。東京の中根姓の4倍と、愛知にゆかりのある姓で、しかも岡崎市が最多だ。「中」は文字どおり真ん中の意味、「根」は山の尾根が立ち上がる麓の部分を指す。つまり、山に入りやすく平地にも出やすいので、「中根」は、人が住みやすい場所（集落）を指す。それが新居であり、小丸であり、安戸であり、大柳であり、蔵次であり、米河内。つまり「中根」は、常磐東そのものなのである。

「槇」は、花が咲く「梢（こずえ）」を表す。花言葉は「慈愛」で、樹木が花を咲かせ、【光】を放つことを意味している。「槇助」はそれを助けるのである。

## ☆和出 翔吾（わで しょうご）

「和出」は、全国で500名しかいない姓である。しかも、500名のうち200名が愛知に集まり、愛知の中で最多の70名を岡崎が占める岡崎の姓である。

「和」とは、「和製」「和式」にみられるように日本のことを表す。つまり、「和出」は、日本が出る（いずる）と書く。つまり、日の丸（太陽）があがる様子を表している。沈む夕日ではなく、昇る「朝日」だ。太陽の【光】が一番美しく、人に元気を与えるのが朝日であり、その朝日が「和出」なのである。

名前の「翔」は、羽が生えた羊。地を駆け巡る羊ではなく、高く舞う羊である。その背景には【光】がさすイメージが浮かぶ。光の中を駆け巡る。そんな自分＝「吾」が「翔吾」である。

続きは次号